本学における新型コロナウイルス感染症への対策について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-09-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 忍 メールアドレス: 所属:
URL	https://opcnr.repo.nii.ac.jp/records/413

本学における新型コロナウィルス感染症への対策について

学生部長　金城忍

ワクチン接種に向けての経緯

沖縄県では，2020（令 2）年 2 月 1 日にダイヤモンドプリンセス号の乗客を乗せたタクシー運転手が SARS-CoV-2 に罹患したことが判明したのが 2 月 14 日であった。その後，m-RNA ワクチンの開発が進み，2021（令 3）年 4 月，本大学もワクチン接種に向けて他大学のワクチン接種に向けた情報収集に取りかかった。その結果，沖縄県内の看護系大学３校のうち，本大学以外は既に接種に向けて進んでいることが判明した。接種に向けて進める根拠となったものが，令和 3 年 2 月 16 日に厚生労働省健康局健康課長より発表された「接種順位が上位に位置づけられる医療従事者等の範囲について（健健発 0216 第 1 号）」であった。そこで本大学は沖縄県保健医療部と相談し，「看護学生臨地実習受入医療機関の長」宛てに看護学生のワクチン接種に向けての協力依頼の文書を発送してもらった。

そこで学長の指示の元，本大学の臨地実習を受け入れている総合病院に接種が可能かどうかの確認を行った。しかしほとんどの実習施設では，自施設の職員の接種が済んでいないことから，本大学の学生や教職員の接種は難しい状況であった。そのような状況下で，沖縄県立南部医療センター・こども医療センターや那覇市立病院からワクチン接種受入を承諾してもらえた。さらに学長の強いリーダーシップの元，学生全ての接種が可能となった。また，当初ワクチン接種を予定していたが，接種当日，体調不良のため接種が行えない学生に対して，コンベンションセンターで接種が受けられる，という沖縄県医療福祉部からの連絡が入り，１回目の接種を 6 月下旬，２回目接種が７月下旬に実施することとなった。

そのように接種が進んでいく中で，学生の方から副反応出現時の対応についての問い合わせがあった。そこで危機管理運営委員会を開催し，厚生労働省から既に報告されていた副反応の出現率，症状等を参考に，副反応が出現した際には公欠扱いで対応する，ということを定めた。その結果，多くの学生から接種後の副反応の報告があり，公欠扱いで対応することが可能となった。

このように，約９割以上の学生がワクチンを接種した後，オミクロン株の流行が始まり，本大学では３回目のワクチン接種を取りまとめて実施はしないが，接種を推奨する，ということで，令和 4 年 3 月 7 日現在，本大学の学生の約 23%が３回目のワクチン接種を終えている。

With コロナに向けて

ワクチン接種は「感染を予防する」のではなく，「感染による症状の劇症化を抑える」ものである。そのため，有事には，感染予防行動の，三密を避ける，マスクを着用する，手指消毒を行う，換気を行う，などを遵守していくことが必要である。一方，感染拡大がある程度収まってきた平時では，各自が常に自分自身の体調管理を行いながら，規則正しい食生活，運動・睡眠など，自らの免疫力を高める行動が重要となる。